なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌
なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方に年4回のペースでお知らせする情報誌です。
VOL.60
発行 / 平成 26 年 4 月

水揚額が日本一の本県天然マダイ

調査情報
・海況情報……2
・25 年度　有明海ノリ養殖生産結果……2
・25 年度　カキ養殖生産結果……3
・ＴＡＣ対象魚種の漁獲動向……3

研究情報
・コイの増殖手法に関する研究……4

なみなみニュース
・鐘崎とらふくを東京でＰＲ……5
・豊前海一粒かき販売促進キャンペーン大盛況……6
・商談会で販路を拡大……6

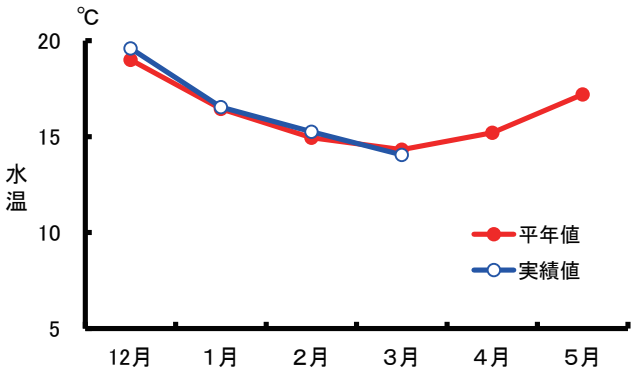
普及だより
・糸島漁協青壮年部　岡﨑礼司さんが水産庁長官賞を受賞……7
・福岡県有明海区研究連合会が福岡のりの品評会を開催……7
・福岡県漁協女性部協議会がリーダー研修会を開催……7

人事異動……8

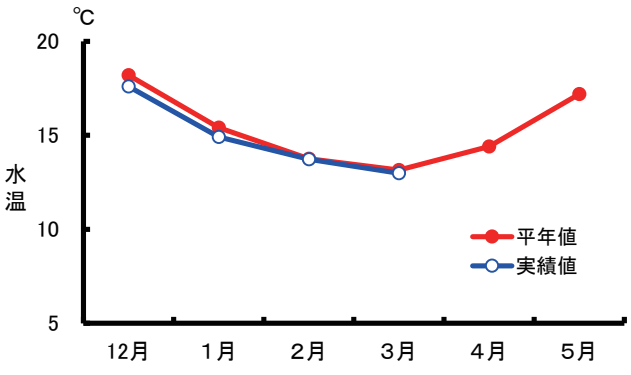
調査情報

海況情報

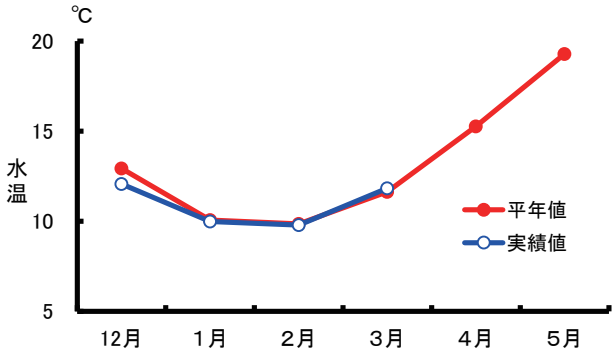
１～３月の表層水温は、筑前海では、沖合域・沿岸域とも、平年並みでした。
有明海では、平年並みでした。
豊前海では、１月は平年並みで、２月は甚だ高め、３月はやや高めでした。



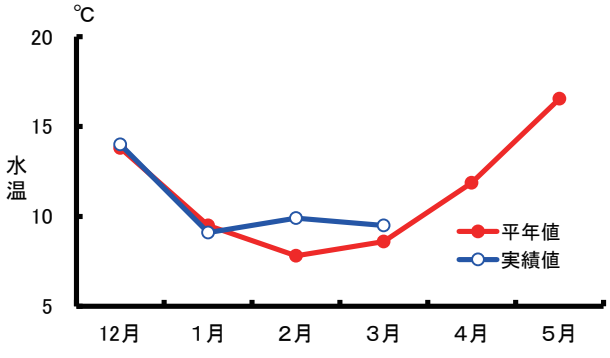
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温

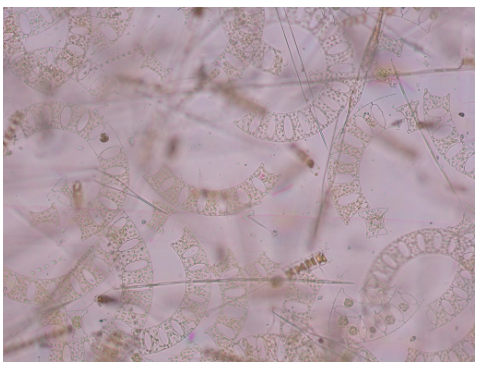


豊前海の表層水温

25年度　有明海ノリ養殖生産結果

ノリ（種付け）は10月19日から開始され、３日間で完了しました。その後、接近した台風による影響も小さく、育苗、冷凍網入庫までは順調に行われました。秋芽網生産はあかぐされ病の感染が継続しましたが、網の適正な管理で乗り切り、平年並みの生産枚数を確保しました。

冷凍網生産は12月26日から開始され、１月中旬までは順調に行われました。しかし、１月下旬から珪藻プランクトンの増殖によって栄養塩が減少したため、ノリの色落ちが発生し、この色落ちは漁期終了間近の３月下旬まで長期間継続しました。



有明海で増殖した珪藻プランクトン

この結果、25年度の生産は、枚数が10.8億枚（平年比80%）、金額が107億円（平年比82%）となっています。

25年度　カキ養殖生産結果

本県の養殖カキは、豊前海区と、筑前海区のうち糸島地区と唐泊地区が主な産地となっています。25年度の各海区の生産状況は以下のとおりです。

【豊前海区】

カキは、養殖開始から順調に生育しました。昨年、生産が減少した要因となったクロダイの食害は、豊前海研究所が開発した「束ね垂下」による効果もあり、大きく軽減されました。また、夏以降の水温や餌条件も良く、収穫も例年どおり11月から行われました。この結果、収穫量は平年を上回る豊漁となりました。

【筑前海区】

糸島地区では、漁場ごとの収穫量に差がみられましたが、イカダ数が増加したこともあり、地区全体では生産量は増加しています。一方、唐泊地区は平年並みの収穫でした。さらに、能古島など、新たにカキ養殖に着業した地区の生産も加わり、海区全体では過去最高となる見込みです。

糸島漁協では新たに５軒がカキ養殖に着業し、福岡市漁協唐泊支所ではカキの輸出を進めるなど、カキ養殖を中心とした浜の活力を高める取組が進んでいます。

一つ一つ丁寧に磨かれる豊前海一粒かき

今年も多くの人で賑わったカキ小屋

（豊前海研究所、研究部）

TAC対象魚種の漁獲動向

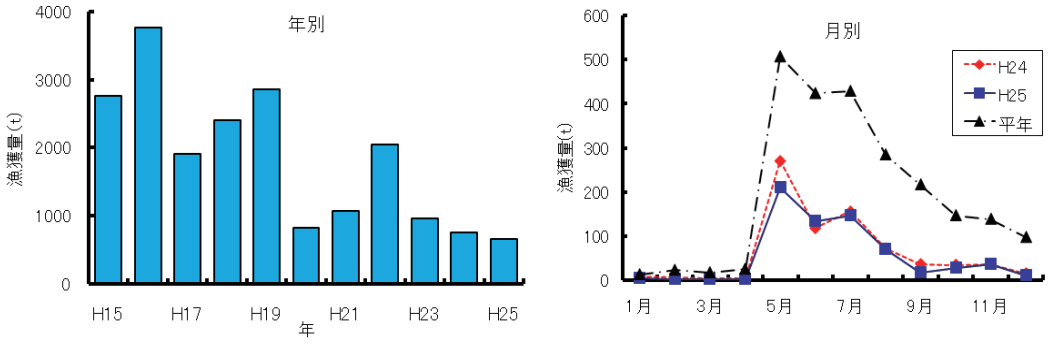
ＴＡＣ制度は「海洋生物資源の保存及び管理に関する法律」に基づき、対象魚種ごとの漁獲可能量（ＴＡＣ）を定め、水産資源の適切な管理を行うものです。

この制度の運用には、漁獲量の把握が不可欠であり、国や都道府県などが連携し、漁獲状況を調査しています。

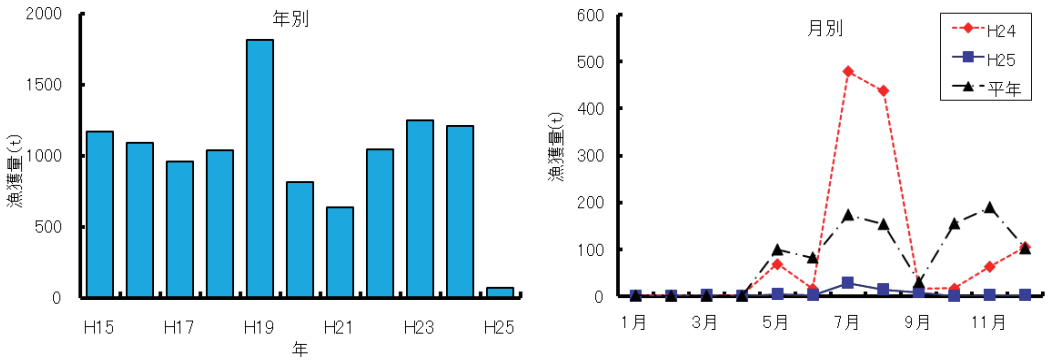
本県では、マアジ、サバ類（マサバ・ゴマサバ）など４種類がＴＡＣ対象魚種となっています。平成25年の本県沿岸漁業の漁獲量は、マアジが667トンで平年比29％、前年比88％、サバ類は70トンで平年比7％、前年比6％でした。マアジは、資源水準が中位ではあるものの、最近、本県沿岸で漁場が形成されていないことが漁獲低迷の要因となっています。一方、サバ類の漁獲は、本県のみならず近隣県でも大きく減少しており、今後の資源動向を注視していく必要があります。

まき網漁業で水揚げされたアジ

マアジ



サバ類



マアジ、サバ類の漁獲量の推移

（研究部）

研究情報

コイの増殖手法に関する研究

コイは本県内水面漁業の重要な魚種ですが、平成16年度にコイヘルペスウイルス病が発生した後、疾病のまん延防止のために種苗放流が中断されています。これ以降、コイの漁獲量は減少傾向にあり、漁業者からは放流事業の再開、もしくはこれに代わる新たな増殖手法を望む声が大きくなっていました。

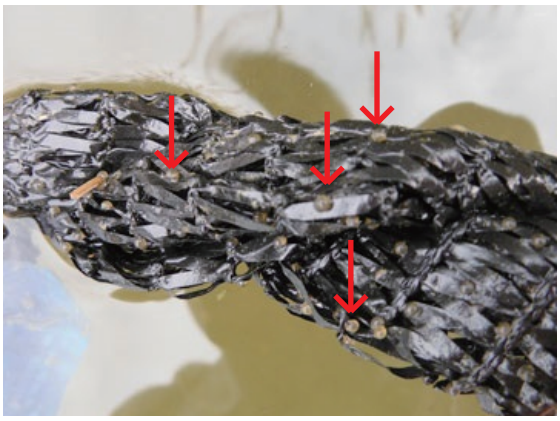
そこで、内水面研究所では、コイの産卵を促し増殖に繋げるため、人工産卵巣（卵を産み付ける基質）の開発に取り組みました。様々な素材を産卵巣に試した結果、コイの産卵には寒冷紗が最も適していることがわかりました。

この結果を基に、塩化ビニル製のパイプで１ｍ四方の枠を作り、その内側に寒冷紗を取り付けた産卵巣を開発しました。この産卵巣１基あたりで９万粒の卵を採ることができました。また、産卵巣には、漁業者が容易に作製できるよう、ホームセンター等で安価に入手できる資材を使用しています。

開発した人工産卵巣

今後は、河川や湖沼でのコイの資源増殖のため、この増殖手法の現場への普及を図っていきます。

河川に設置した人工産卵巣



人工産卵巣に産みつけられたコイの卵
※卵の一部を↓で指しています。

なみなみニュース

鐘崎とらふくを東京でPR

宗像市鐘崎は、全国有数の天然トラフグの産地であり、このフグを地域資源として地域活性化に繋げようと漁業者や飲食業者が連携し、26年2月に東京でＰＲイベントを行いました。

イベントでは、小川県知事も参加し、在日駐留大使やマスコミ関係者、旅行業者などに、「鐘崎天然とらふく」の創作料理を振る舞い地域の魅力をＰＲしました。

一方、トラフグ資源は低迷しており、漁業者はこれまでも種苗放流に加え、漁期の短縮や25cm以下の小型魚の再放流などの資源管理に取り組んできました。鐘崎漁協では、さらなる資源管理を進めようと、新たに30cm以下の小型魚の再放流に取り組んでいます。

今回のような資源管理と販売促進を両輪とした取組が、浜の活力向上に繋がっていくことが期待されます。

「鐘崎とらふく」をＰＲする小川知事

「鐘崎とらふく」を使った創作料理

豊前海一粒かき販売促進キャンペーン大盛況

豊前海一粒かきは、生産量の８割以上が直接販売されています。このため、消費者へのＰＲが極めて重要です。

カキ養殖業者で構成される豊前海区かき養殖研究会では、福岡市や沖縄県の消費者を対象として販売促進イベントを開催しました。

平成 26 年２月７日、恒例となった福岡市天神でのイベントでは、悪天候にもかかわらず、開始前から長い列ができ、ファンが着実に増えていることを実感しました。また、３月８～９日、６回目となる沖縄県でのイベントでは、連日１トンのカキが数時間で売り切れるなど、豊前海一粒かきの認知度が高まっていることがうかがえました。

天神販売促進キャンペーン

沖縄販売促進キャンペーン

商談会で販路を拡大

漁協などでは、水産物の直接販売、直接取引により収益性を確保するため、商談会を活用し小売業や飲食業などに対し、直接、水産物をＰＲする取組が進展しています。

県主催の「ふくおか『農と商工の自慢の逸品』展示商談会」では、糸島漁協など３団体が出展し、飲食店や量販店などが関心を示していました。また、北九州市主催の商談会では、豊前海区の漁協が豊前海一粒かきやヨシエビなどを出展し、地産地消に取り組むホテルや飲食店との商談が進んでいます。

趣向を凝らした展示により商品をＰＲ

来場者に自慢の水産物をＰＲ

普及だより

糸島漁協青壮年部　岡﨑礼司さんが水産庁長官賞を受賞

平成 26 年３月に東京都で第 19 回全国青年・女性漁業者交流大会（ＪＦ全漁連主催）が開催されました。

福岡県からは、糸島漁協青壮年部の岡﨑礼司さんがカキ殻リサイクルの取組を発表し、水産庁長官賞を受賞しました。

発表では、岡崎さんらが、ＪＡ糸島や肥料会社など他業種と連携して取り組んだカキ殻リサイクル活動により、カキ殻の処理費用が削減されるとともに、地域の連携がより一層深まったことを報告しました。

地域と連携し、課題解決に取り組んだことが高く評価され、今回の受賞となりました。

水産庁長官賞を受賞した岡﨑礼司さん（中央）

福岡県有明海区研究連合会が福岡のりの品評会を開催

若手ノリ生産者で構成される福岡県有明海区研究連合会では、26 年３月に福岡のりブランド推進品評会を開催しました。

品評会は、生産者が丹精を込めてつくったノリを一堂に集め、優秀なノリを表彰することで品質に対する生産者の意識を高めることを目的として行われています。

審査は一次審査と二次審査があり、各地区の予選を勝ち抜いたノリが二次審査に進むことが出来ます。今年度から、二次審査に漁業関係者だけでなく、一般消費者の皆さんも参加しました。

真剣な表情でノリを審査する参加者

審査の結果、最優秀賞の福岡県知事賞は有明漁協の田島修司さんが受賞しました。また、品評会終了後には出品されたノリの直売も行われ、大いに賑わいました。

福岡県漁協女性部協議会がリーダー研修会を開催

福岡県漁協女性部協議会が、26 年３月に朝倉市で、漁村のリーダーとなる女性漁業者を育成しようと研修会を開催しました。研修会では、研究部の職員が漁業経営の費用構造と水産物の付加価値向上について講演を行い、加工品開発の事例紹介では、皆さんが真剣な表情で講演を聴き入っており、６次産業化の取組に対する関心の高さがうかがえました。

女性部協議会リーダー研修会

人事異動

（平成26年4月1日付け）

○水産海洋技術センター

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
		所　長	西川　仁	豊前海研究所
企画管理部	総務課	課　長	中原　貞典	工業技術センター
		主任技能員	友岡　裕晶	福岡県土整備事務所
研究部	資源環境課	課　長	秋本　恒基	水産振興課
	資源環境課（げんかい）	主任技師	松下　誠一	豊前海研究所
	資源環境課（つくし）	主任技師	濱田　健吾	漁業管理課
	浅海増殖課	課　長	松井　繁明	水産振興課

○有明海研究所

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
	のり養殖課	技　師	江頭　亮介	新規採用
	資源増殖課	参事補佐	吉田　幹英	漁業管理課

○豊前海研究所

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
		所　長	筑紫　康博	漁業管理課
	漁業資源課	課　長	江藤　拓也	水産海洋技術センター
		事務主査	坂本　篤	国際経済観光課
		主任技師	俵積田貴彦	漁業管理課
	漁業資源課（ぶぜん）	技術主査	堀　憲一	水産海洋技術センター
		主任技師	小西　祐介	水産海洋技術センター

○内水面研究所

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
		研究員	白石　日出人	有明海研究所

△転出

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
農林水産部水産局	漁業管理課	参事補佐兼係長	徳田　眞孝	内水面研究所
		技術主査	尾田　成幸	豊前海研究所
		主任技師	馬渡　拓一	豊前海研究所
	漁業調整委員会事務局	技術主査	金澤　孝弘	有明海研究所
	水産振興課	課長技術補佐	上妻　智行	豊前海研究所
		参事補佐兼係長	林　宗徳	水産海洋技術センター

□退職（平成26年3月31日付け）

旧　所　属	職　名	氏　名
水産海洋技術センター	所長	半田　亮司
水産海洋技術センター	総務課長	末崎　博之
水産海洋技術センター	主任技能員	関　恭輔
豊前海研究所	企画主査	榎田　若久

＜編集発行＞福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
〒819－0165　福岡市西区今津1141番地1
TEL　092－806－5251　FAX　092－806－5223
センターホームページ　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/
携帯電話対応　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/